

2023年 第1回 九大本番レベル模試

解答・採点基準

全5問 120分 200点満点

[1](45点)

解答

問1

(ア) (D) (イ) (A) (ウ) (C) (エ) (A)

問2

キツツキが木を突きつづけても脳震盪を起こさないのは頭部に衝撃を吸収する仕組みがあるからだとする従来の考えを踏まえ、これが正しいなら木を突くときの頭蓋とくちばしの減速の度合いが異なるはずだ、という仮説が立てられた。これを検証すべく、木を突く様子を高速度撮影してキツツキの各部分を観察する方策がとられた。(150字)

問3

木を突く際にキツツキが木に向けているエネルギーの一部を吸収してしまうとしたら、幹に加えられるエネルギーが小さくなり、穴を作る作業の効率が落ちてしまうということ。

問4

それゆえ、脳震盪を起こさない程度の事象ですら脳に有害な影響を与えうるのであり、キツツキは、これらの脳震盪を起こさない程度の度重なる損傷原因から脳を保護する、未だ特定されていない何らかの生理学的な仕組みを持っているのかもしれない。

問5 (D)

採点基準

問1 各2点 計8点

(ア) (D) (イ) (A) (ウ) (C) (エ) (A)

問2 15点

キツツキが木を突きつづけても脳震盪を起こさないのは頭部に衝撃を吸収する仕組みがあるからだとする従来の考えを踏まえ、これが正しいなら木を突くときの頭蓋とくちばしの減速の度合いが異なるはずだ、という仮説が立てられた。これを検証すべく、木を突く様子を高速度撮影してキツツキの各部分を観察する方策がとられた。(150字)

* 各要素に関しては、記述されていても位置付けが異なる場合には加点しない。たとえば3.に記述すべき内容を2.に記述している場合、その箇所については加点しない。ただし、特定の要素を重複して記載しており、重複箇所のうちの一方が適切である場合には減点しない。

1. 仮説の前提となる従来の考えとして、第1段落第②文や第3段落第②文後半をもとに、(木を突きつづける)キツツキが脳震盪を起こさないのは頭部に[くちばしと頭蓋の間に]衝撃を吸収する仕組みがそなわっているからだ、というものが記述されていれば5点加点。
 - 「脳震盪」については問題用紙に語注があるが、「盪」が常用漢字ではないという事情から、「脳震とう」「脳しんとう」と平仮名を含めて書いたものも減点しない。ただし、漢字が誤っている場合には減点する。
2. 1.のような考えが正しいとの仮定に基づいた仮説の具体的な内容として、第3段落第②文をもとに、キツツキが木を突くときの[くちばしが木に衝突する際の]頭蓋とくちばしの減速の度合い[加速度]が異なるはずである、というものが記述されていれば5点加点。
 - 問題となるのは、どの程度の減速が生じるかという点なので、「速度が異なる」などとしているものについては加点を3点にとどめる。加速度の差が問題となるので、直接的に問題となるのは(エネルギーというより)第4段落第①文にあるように力(force)だが、第2段落第③文を踏まえ「エネルギー」が問題であるかのような記述を行う答案も減点しない。
3. 2.の仮説検証のために用いられた手段として、第3段落第①文をもとに、キツツキが木を突く様子を高速度撮影し、キツツキの頭部の各部分が観察された[各部分の動きが追跡された]ということが説明されていれば5点加点。
 - 3種のキツツキが観察された、ということに関する記述の有無は点数に影響しない。
 - 木を突く様子を高速度撮影したこと、木を突く際のキツツキの頭部の各部分の動きを追跡したこと、の2点がこの加点項目を満たすために必要である。このうちのどちらか一方についてのみ記述がある場合には加点を2点にとどめる。

問3 9点

木を突く際にキツツキが木に向けているエネルギーの一部を吸収してしまうとしたら、幹に加えられるエネルギーが小さくなり、穴を作る作業の効率が落ちてしまうということ。

1. 直前つまり第2段落第③文の内容や、直後との対応を踏まえて、キツツキが木を突く際に衝撃を吸収していると仮定すると何かしら不合理が生じる、ということを説明できていれば4点加点。
 - 第1段落第②文の内容を踏まえて、衝撃を吸収している部分として「キツツキのくちばしと頭蓋の間の骨」などとしていても減点しない。
 - この内容が実際に生じていることであるかのように記述している場合、加点を2点にとどめる。
2. 上記1.の加点項目に関し、こうした仮定に基づいて生じる不合理として、木(の幹)に加えられるエネルギー[力]が減るため、突く作業の効率が落ちる、ということを記述していれば5点加点。
 - 第2段落第③文の内容を正確に訳出することは求められない。
 - 第2段落第③文を踏まえるにせよ、踏まえないにせよ、(突く作業の効率が落ちた結果として)穴を作るためにはより強く突かなくてはならなくなる、という方針や、穴を作るのが難しくなるくらいの内容で記述していても、あるいはそうした内容を含めて記述していても減点しない。

問4 8点

So even subconcussive events can have a detrimental effect on the brain, and woodpeckers may have some yet-to-be-determined physiological mechanisms that protect their brain from these repeated subconcussive insults.

それゆえ、脳震盪を起こさない程度の事象ですら脳に有害な影響を与えうるのであり、キツツキは、これらの脳震盪を起こさない程度の度重なる損傷原因から脳を保護する、未だ特定されていない何らかの生理学的な仕組みを持っているのかもしれない。

* 末尾の句点の有無は点数に影響しない。

1. So even subconcussive events can have a detrimental effect on the brain を「それゆえ、脳震盪を起こさない程度の事象ですら脳に有害な影響を与えうるのであり」などと訳出できていれば3点加点。
 - 冒頭の So に対応する訳語については、直前の内容を踏まえて主張を展開するものなので、「つまり」なども(最適ではないが)広く認め減点しない。
 - subconcussive や events や detrimental の訳語は多少不自然なものも含め極めて広く認めるが、不適切なものが用いられている場合には減点する。
2. and woodpeckers may have some yet-to-be-determined physiological mechanisms を「キツツキは(...)未だ特定されていない何らかの生理学的な仕組みを持っているのかもしれない」などと訳出できていれば3点加点。

- **some** については、「いくつかの」という系統の意味で訳出している場合、「何らかの」という系統の意味で訳出している場合も減点しないが、訳し落としている場合は減点する。
 - **mechanisms** については、「機構」「仕組み」の他、カタカナによる音写も含め広く認め減点しない。
 - **yet-to-be-determined** の訳出が不適切な場合には、減点する。数多あるもののうちから、あるいはそれまで明らかになっているものの中から突き止められている・特定されているという意味を表現できていれば減点しないが、「発見されていない」「解明されていない」などは減点する。
3. **that protect their brain from these repeated subconcussive insults** を、**mechanisms** を修飾する主格の関係代名詞が導く節にとらえ、「これらの脳震盪を起こさない程度の度重なる損傷原因から脳を保護する」などと適切に訳出できていれば 2 点加点。
- この関係詞については、「～するための(…)生理学的な仕組み」「(…)生理学的な仕組みがあって、それが～している」などと、関係代名詞を直訳しない表現であっても因果関係を正しく把握できていれば減点しない。
 - **insults** は身体的物理的な「外傷」ないし「損傷(の)原因」を意味するので、「侮辱」などと訳出している場合も含め、物理的な外傷を加えられているということを読みとることができない訳語を用いている場合には減点する。

問 5 5 点

[2](40点)

解答

問 1

人類の存亡に関わる疑問に対して、多分野を大胆に越境し簡潔明瞭で自信に満ちた答えを与えてくれる預言者のような存在を求めることが現実的なのか、という問い。

問 2 (B)

問 3 (B)

問 4

(ア) (B) (イ) (D) (ウ) (B) (エ) (C)

問 5

ハラリが、微細な間違いを指摘しづらい極めて大きな問題を扱うことで、専門家による事実確認に基づいた批判を事前に回避していること。

採点基準

問 1 10 点

人類の存亡に関わる疑問に対して、多分野を大胆に越境し簡潔明瞭で自信に満ちた答えを与えてくれる預言者のような存在を求めることが現実的なのか、という問い。

1. 直前の第 1 段落最終文を踏まえ、ある内容が**現実的であるか否か**という問いが問題になっていることを明示できていれば **4 点加点**。
2. 1.で触れた**現実的であるか否か**を問われている態度として、第 1 段落第⑤文を踏まえ、**ある種の疑問に対して多分野を大胆に越境して簡潔な答えを与えてくれる預言者のような存在を求めること**、などと説明できていれば **3 点加点**。
 - **ある種の問いに対する答えを与える存在を求めることが問題になっていることを記述できていれば加点するが、ある種の問いに答えを与える存在**としか書いていない(第 1 段落第⑤文の desire を反映していない)ものは**加点しない**。
 - 「預言者のような」という要素はなくても**加点する**。盛り込んでいる場合、prophet の訳語については、「**予言者**」も認め**減点しない**。
3. 2.で触れた「**答え**」が**いかなる疑問に対するものであるか**ということについて、第 1 段落第①文を踏まえ、**人類の存亡に関わる疑問**である、ということを明確にできていれば **3 点加点**。
 - 第 1 段落第②～④文の内容を踏まえて**問いの具体的内容**を記載していても**減点しない**。
 - 「**生死に関わる疑問**」「**人生と死についての疑問**」などとしている場合には**加点を 1 点にとどめる**。

問 2 5 点

問 3 5 点

問 4 各 2 点 計 8 点

問 5 12 点

ハラリが、微細な間違いを指摘しづらい極めて大きな問題を扱うことで、専門家による事実確認に基づいた批判を事前に回避していること。

1. 第 6 段落第②・③文を踏まえ、**ハラリが、事実確認に基づいた専門家による批判を(事前に)回避している**、ということを表現できていれば **7 点加点**。
 - 本文で言われるのは、そもそも批判が加えられないようなものを公表する、ということであるが、この意味を明確に表現することまでは求めない。ただし、**提出された批判を無視している**、**という意味で理解している**ことが明確な答案については**加点しない**。

- 避けているのが第③文の「専門家の[専門家による]批判(expert critique)」という点と、専門家が批判のプロセスにおいて行うことが下線部に含まれる「事実確認」である、という要素をともに含む必要がある(明晰に分節されている必要はない)。一方しか記述していない場合は加点を3点にとどめる。
2. 批判を回避するための方策として、第6段落第③文を踏まえ、微細な間違いを指摘しづらい[指摘することが意味を失う／指摘できない]ような極めて大きな問題を扱っている、ということ指摘できていれば5点加点。
- ハラリが設定する問題が大きなものであることと、それゆえに微細な間違いを指摘しづらいということとともに記述していることが、本加点項目について満点を与える条件である。一方しか記述していない場合は加点を2点にとどめる。
 - 本文や第6段落後半のガンの発言内容を引用することは許容されるが、第6段落後半の引用文から直訳する形式で解答することに終始しており、説明を行っていないものについては2点減点(本設問は対応箇所の訳出でなく説明を求めている)。

[3](35点)

解答

問1 (C)

問2

健康状態が改善され豊かになりつつあることで、より明るい未来を思い描ける傾向。

問3

国家が衰退しつつあるということ。

問4

戦争に負け(てい)る国は、戦場でのさらなる後退を恐れており、短期的に効果を生む軍事力の増強に取り組む以外の選択肢をほとんど持たない。

問5 (A)

採点基準

問 1 5 点

問 2 9 点

健康状態が改善され豊かになりつつあることで、より明るい未来を思い描ける傾向。

* 本設問では、誤字・脱字の類や不適切な日本語表現については 1 箇所につき 2 点減点する。

1. 直前の文を踏まえ、健康状態が改善されること、豊かになること、これらによってより明るい未来を思い描ける(ようになる)こと、という要素を記述できていれば 9 点加点。
 - 以上 3 要素のうち、1 つ欠けるごとに 3 点減点。
 - 各要素については具体例を記載していても構わないが、具体例に終始している要素については説明が不足している(欠けている)とみなし全体から 3 点減点。
 - 直後との整合性に鑑み、「明るい未来を思い描く」ということが確定的な事実として記述されている場合には 3 点減点。あくまでもそれが可能になる、ということを記述することが求められる。

問 3 7 点

国家が衰退しつつあるということ。

* 本設問では、誤字・脱字の類や不適切な日本語表現については 1 箇所につき 3 点減点する。

1. 第 6 段落第③・④文の関係を踏まえ「国家が衰退しつつあること」という内容を指摘できていれば 7 点加点。
 - 第③文の their state is on the upswing に反対の内容を書けている時点で加点するが、これ以外に(signal に相当する要素など)余計なことを書いている場合には加点を 3 点にとどめる。

問 4 9 点

Countries that lose wars have little choice but to commit to building short-term military power, fearing further setbacks on the battlefield.

戦争に負け(てい)る国は、戦場でのさらなる後退を恐れており、短期的に効果を生む軍事力の増強に取り組む以外の選択肢をほとんど持たない。

* 末尾の句点の有無は点数に影響しない。

1. Countries that lose wars have little choice but to commit to building short-term military power について、「戦争に負け(てい)る国は(略)短期的に効果を生む軍事力の増強に取り組む以外の選択肢はほとんど持たない[取り組む以外にはほとんど選択の余地を持たない]」などと適切に訳出できていれば 6 点加点。

- Countries that lose wars については、「負け(てい)る国」の他、最適ではないが、「敗戦国」も減点しない。
 - little が数の少なさを強調する語として機能していることを理解できていない答えは、2点減点。この減点項目で減点されるのは、たとえば存在を全否定する訳文を提示する答え、つまり「他に～がない」「～せざるをえない」などとする答えである。
 - but が除外の意味を含む語として機能していることを理解できていない答えについては、2点減点。
 - commit to *doing* については「取り組む」「専念する」などを広く認めるが、「コミットする」などの音写や、意味を取り違えた訳出については2点減点。
 - short-term military power については、制限的用法で訳出していても、非制限的用法で訳していても減点しない。
2. **fearing further setbacks on the battlefield** が Countries を意味上の主語とするいわゆる分詞構文であることを理解し、「戦場でのさらなる後退を恐れており」などと適切に訳出できていれば3点加点。
- setbacks の訳語については、戦場における不利な状況を記述する語として適切であれば、「撤退」「退却」「敗走」などを幅広く認め減点しない。

問5 5点

[4](50点)

解答

(a)の解答例

Plurality of choices guarantees an opportunity to study. For example, during the COVID-19 pandemic, almost all schools were obliged to transform themselves so that their students could continue to study without gathering in classrooms. This illustrates a part of the benefits, or even necessity, of having many options in addition to the traditional one. Also, since each student has different kinds of demands, there should also be different options: some students may want to learn on their own and be dissatisfied with the slow standardized curriculum, while others may have difficulty even keeping up with their class and need individual tuition.

(101 words)

(b)の解答例

We study because we are not knowledgeable about what we are studying. It means we cannot correctly evaluate the quality of learning materials in advance, or choose the most appropriate one among them. With many alternatives available, we are prone to choosing what is incorrect but entertaining, instead of what is really helpful but may be boring. Also, the abundance of materials may enlarge the educational gap: the rich can try many ways and adopt the one which is the best for them, while the poor have to make do with a limited choice of materials.

(96 words)

(c)の解答例

Learning is a difficult matter and it is highly possible that one explanation is helpful for some students but not for others. Thus, it is beneficial to have many options. Besides, if many actors try to put themselves ahead of the competition, they will need to continually ameliorate their materials. However, such competition entails some risks: in order to gather attention and gain profit, insincere marketers or laypeople often simplify things at the sacrifice of correctness, which is unacceptable from an academic viewpoint. What could be

more harmful is public schools could end up participating in this competition and reduce themselves to catering to students with childish, empty educational content.

(110 words)

採点基準

- * (a)(b)(c)や、語数を示す必要はないが、示していても減点しない。
- 1. 解答全体の内容から、最低限必要な数の利点、欠点ないしその双方を挙げていれば 50 点加点。
 - 実際にほぼ等しい論点であるとしても、ディスコースマーカーを用いるなどのかたちで分節する意図を読み取れる限りにおいて、複数の論点が挙げられていると解釈する(英文の稚拙さや論理の不完全さという観点から、別立てで減点する)。
 - 必要な数の論点を挙げられていない場合、25 点減点。
- 2. 設問の指示に鑑み、段落を複数に分割している場合には 15 点減点。
- 3. 設問の要求に鑑み、利点ないし欠点について、それがなぜ・どのような意味で利点あるいは欠点であるのかが全く読み取れないものになっている場合には、1 つの要素につき 10 点減点。

[5](30 点)

解答

In 2011, roughly half, 54.1 percent to be exact, of first-year students had a part-time job. From then until 2019, except for slight decrease between 2016 and 2017, the percentage increased each year and reached 71.1 percent in 2019. After this rise, there was a sharp decline between 2019 and 2020. The figure then was almost the same as that of 2011. It rebounded however to 65.1 percent in 2021, back to the level of 2015.

(76 words)

採点基準

- * 語数を示す必要はないが、示していても減点しない。
 - * 示されているデータに反する記述や、数値に関する計算の誤りなどについては、1箇所につき4点減点。
 - * 単に数値を羅列しているものについては、加点しない。
1. 2011年から2019年まで増加傾向にあることを説明できていれば10点加点。
 2. 2019年から2020年にかけて大きく減少していることを説明できていれば10点加点。
 3. 2020年から2021年にかけて数値が再び上昇していることを説明できていれば10点加点。